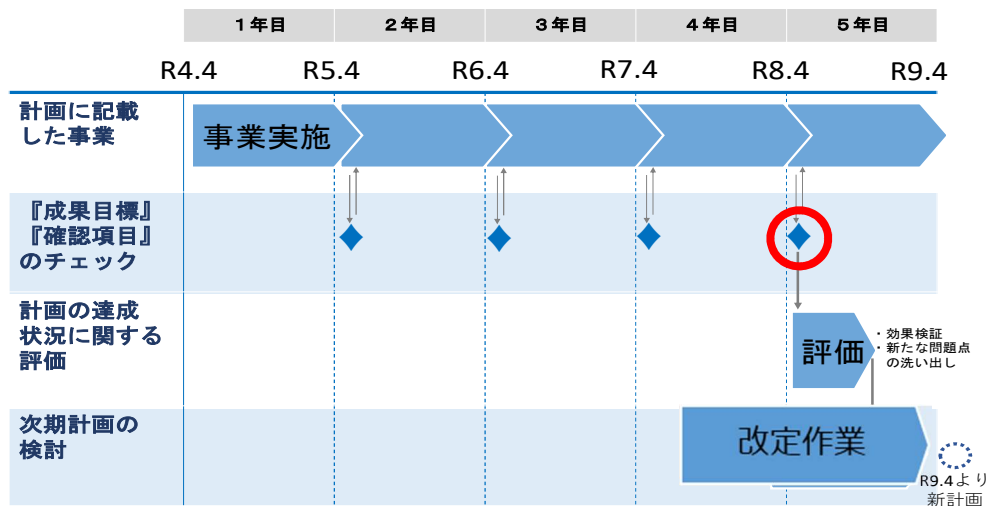


岡崎市地域公共交通計画の評価結果について

1 はじめに

本市では令和4年3月14日に岡崎市地域公共交通計画を策定し、鉄道事業者やバス事業者、タクシー事業者が連携して公共交通ネットワークの確保・維持、利用促進に取り組むとともに、行政・市民・交通事業者・企業・地域団体などがそれぞれ役割分担をし、設定した目標の実現を目指している。

計画の推進にあたり、目指すところとして「成果目標」を、基本目標の達成度合いをチェックする目的のため「確認項目」を設定し、これらの達成状況を見ながら計画の進捗状況を管理するため、本会議にて計画の目標値について評価を実施するものとする。



2 岡崎市地域公共交通計画の概要

(1) 計画期間：令和4年度～令和8年度

(2) 基本理念：新たなくらしと活力の創造を支える交通体系

(3) 成果目標：公共交通利用者数の回復

目標値		達成状況（上段：利用者（万人） 下段：目標値に対する達成率）				
		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
鉄道	2,678 (R 8)	2,138 (R 3) 80%	2,284 (R 4) 85%	2,414 (R 5) 90%	2,457 (R 6) 92%	
バス	668 (R 8)	522 (R 4) 78%	553 (R 5) 83%	544 (R 6) 82%	527 (R 7) 79%	
タクシー	137 (R 8)	79 (R 3) 58%	101 (R 4) 74%	91 (R 5) 66%	95 (R 6) 69%	

●達成状況・分析

- ・鉄道、タクシーは令和6年度から利用者数が増加したが、バスは令和6年度から利用者数が減少した。
- ・定期利用者が増加している鉄道事業者もあり、通勤・通学需要が回復傾向にあると推察される。

●評価・次年度に向けた課題や取組

- ・鉄道事業者と連携してウォーキングイベントを実施。
- ・公共交通事業者と連携し、エコ通勤、ポスターコンクール等の利用促進策を実施。
- ・バス事業者と連携し、実際のバスを利用したバスの乗り方教室を市内の小中学校で実施。
- ・イベント期間中の渋滞及び路線バスの遅延緩和を図り、公共交通の利用を促進するため、パークアンドライドを実施。
- ・地域内交通の導入により既存バス路線と連携した移動を確保する。
- ・地域内交通の導入に際し、タクシー事業者と連携して事業を実施。
- ・公共ライドシェアの導入可能性を探る。

(4) 基本目標

●基本目標 1 交流を支え都市の魅力を高める

確認項目	現況値	参考
都心ゾーンの鉄道駅乗降客数 (JR 岡崎駅、愛環岡崎駅、名鉄東岡崎駅)	2,872 万人 (R 6)	3,178 万人 (H30)
主要なバス停の乗降客数 (岡崎駅前、東岡崎、康生町)	13,159 人 (R 7)	16,950 人 (H30)
シェアサイクルの利用回数	92,035 回 (R 7)	19,893 回 (R 2)

●基本目標 2 地域のニーズにあった地域主体の交通

確認項目	現況値	参考
公的資金が投入されている公共交通事業の収支率	33% (R 7)	37% (H30)
公共交通への公的資金投入額	4.7 億円 (R 7)	3.3 億円 (H30)
市運営路線の利用者数 (額田地域コミュニティバス)	5,060 人 (R 7)	5,573 人 (H30)

●基本目標 3 人と環境にやさしい交通

確認項目	現況値	参考
駅のバリアフリー対応	未整備 1 箇所	中岡崎駅 (※ 1)
ノンステップバスの導入率	73% (R 7)	
高齢者バスの利用回数	2,440 回/日 (R 7)	
鉄道・バスの沿線 (鉄道駅から 800m、バス停から 300m) 人口	297,367 人 (R 7)	市人口の内、約 78%

※ 1 令和 6 年度に中岡崎駅・岡崎公園前駅バリアフリー基本構想を策定した。令和 9～10 年度にかけて、バリアフリー化工事を実施予定。

●基本目標 4 新たな社会に対応したスマートな交通

確認項目	現況値	参考
情報のオープン化 (オープンデータ化)	6 路線 (R 7)	
コロナ禍における公共交通への不安 (公共交通利用者数の回復) ※コロナ前と比較して利用者数の減少が大きい岡崎市内線を対象	205 万人 (R 7)	260 万人 (H30)
IC カードの利用率	54% (R 7) (※ 2)	現金使用者は全体の 8%

※ 2 定期券利用者は除く。